

マクロ経済学の現状

現代マクロ経済研究の多くは、時間の経過する中で経済現象を捉え、ワルラス均衡を分析の出発点とするという共通性をもつ。

I. 1950 年代, 1960 年代

A. IS-LM, AD-AS 分析

1. ケインズ一般理論の一解釈としての IS-LM モデル
2. AD-AS の導出
 - a. AD 曲線
 - (1) IS-LM 均衡
 - (2) 所与の貨幣供給量
 - b. AS 曲線
 - (1) 「古典派」の第 1 基本前提 $MPL = \frac{w}{p}$
 - (2) 貨幣賃金率の硬直性 $w = \bar{w}$

B. 古典的状況 classical situation

1. 論争の沈静
2. 大多数の支持する理論体系

II. 「古典派」とケインズ

A. セーの販路法則 — ワルラス均衡

1. ワルラス均衡の条件
 - a. 家計の効用最大化
 - b. 企業の利潤最大化
 - c. 需要供給の均衡
2. ワルラス均衡の資源配分
 - a. 完全利用
 - b. 効率的配分
 - c. 最適な部門間配分

B. ケインズ均衡

1. 不完全な価格伸縮性
2. 供給に対する需要の数量制約

III. 1970 年代に起きたマクロ経済学の変化

A. 経済の現実の問題 — スタグフレーション stagflation

1. インフレーション
2. 経済の停滞

B. 理論の基礎に関する問題

IV. 最近のマクロ経済学

A. 時間軸のある理論

B. ワルラス均衡

1. 出発点としてのワルラス均衡
2. 付加条件
 - a. 確率的攪乱要因 (実物的景気循環理論)
 - b. 価格改定の費用, 等々

参考文献

Hicks, John R. (1937) "Mr. Keynes and the 'Classics' : A Suggested Interpretation." *Econometrica* 5: 147-159.

Tobin, James (1980) *Asset Accumulation and Economic Activiey*. Oxford: Basil Blackwell. (浜田宏一, 藪下史郎訳『マクロ経済学の再検討』東京: 日本経済新聞社, 1981.)

Lucas, Robert E. Jr. (1987) *Models of Business Cycles*. Oxford: Basil Blackwell. (清水啓典訳『マクロ経済学のフロンティア: 景気循環の諸モデル』東京: 東洋経済新報社, 1988.)